

平田オリザの月イチ木曜夜話／平田オリザの文化芸術夜話

特定非営利活動法人アートファーム

活動の目的

【動機】

当団体が2022年に創立から30周年を迎えるにあたり、創立時から当団体の役員を務めるとともに、さまざまな活動を協働してきた劇作家・演出家の平田オリザ氏を講師に迎え、舞台芸術と現代社会が直面している諸課題について、毎回テーマを設けて縦横に語っていただきました。

【目的】

平田氏は2019年秋、東京から兵庫県豊岡市に移住し、地域を拠点にした文化芸術の創造と発信に傾注しています。とりわけ、豊岡市における城崎国際アートセンターの芸術監督、2020年の江原河畔劇場発足と豊岡演劇祭開催、2021年4月開学の芸術文化観光専門職大学の学長などの立場から、地域における文化芸術の可能性を語っていただきました。

活動の内容及び経過

【経過】

本講座は当初、2020年4月から毎月1回木曜日の夜に開講する計画でした。しかし、同年2月に惹起した新型コロナウイルス感染拡大の影響により結果的に年間で4回の開講となりました。

【内容】

- 第1話（6月25日）：「豊岡市の文化政策」と題して同市の文化芸術を資源にした新しい地域づくりを紹介。
- 第2話（7月16日）：「文化芸術による社会包摂」と題して共生社会の担い手となる文化芸術の役割を解説。
- 第3話（1月29日）：「地域と生きる文化施設」と題して青森県八代市「ハッチ」、金沢21世紀美術館などを事例紹介。
- 第4話（2月20日）：「劇場の役割（時代による変遷）」と題して劇場における芸術監督の重要度を解説。

活動の成果・効果

【成果】

コロナ禍において多くのコミュニケーションがリモート化してゆくなか、平田オリザ氏の理解のもとで対面による対話ができることを成果と考えます。また、いま日本の舞台芸術シーンにおいて括目されている豊岡市の文化政策について紹介できたことも、これからの岡山市の方途を探るうえで参考となりました。

【効果】

定量的な効果は不明ですが、参加者一人ひとりが地域と文化のつながりについて問題意識を持ってたと思います。コロナ禍のため平田氏や参加者同士の交流はできませんでしたが、文化芸術関係者だけでなく教育・行政・NPO関係者など多



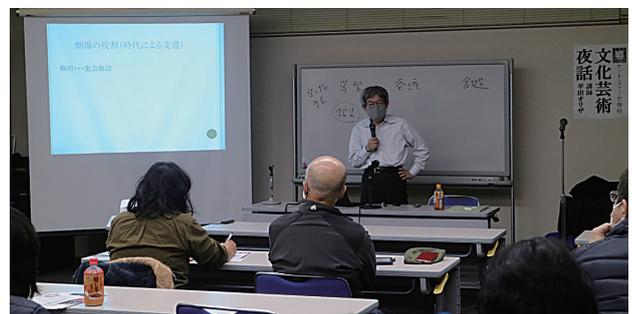
2020年6月25日@丸の内テラス



2020年7月16日@丸の内テラス



2021年1月29日@国際交流センター



2021年2月20日@国際交流センター

分野の方々に聴講いただけたことも、これからのネットワークづくりに効果的だったと考えます。

今後の課題と問題点

【問題点】

コロナ禍の影響で通年型のセッションにはなりません。平田氏には舞台芸術とポストコロナの見通し、東京一極集中の打破と地域演劇、中国・韓国・東南アジアとの交流、岡山県における関わり方とスタンス、城崎国際アートセンターの次期芸術監督、劇団青年団の東京・豊岡の拠点戦略、新しい大学学長としての構想とカリキュラムと教授陣など、さまざまな各論について聴聞が叶いませんでした。

【課題】

平田氏は今春から芸術文化観光専門職大学の学長に就くため、今年度のような自由度の高いセッションも困難が予測されます。また、舞台芸術の新しい観客づくりは喫緊の課題でもあり、こうした講座の必要性が失われることはありません。

- 代表者：大森誠一 ●所在地：岡山市北区丸の内
- TEL：086-233-5175 ●E-MAIL：info@artfarm.or.jp
- URL：http://www.artfarm.or.jp
- 設立年：1992年 ●メンバー数：7名